

(34) すいか
(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
緑斑モザイク病 キュウリ緑斑モザイクウイルス (CGMMV)	発病条件 1. 種子、土壌、接触で伝染する。 耕種的防除 1. 輪作とほ場の清掃に努める。 2. 早期診断と病株の除去に努める。
苗立枯病 (フザリウム菌、 ピシウム菌)	耕種的防除 1. 無病土で育苗する。 薬剤防除 1. 土壌灌注 2. 土壌混和
半身萎凋病 収穫後又は植付前	物理的防除（ハウス栽培） 1. 蒸気土壌消毒（スパイク法：スパイク長 19 cm） (1) 育苗床土消毒法 ① ポリフィルム上に床土高さ 25 cm以内に土盛りし、その上にポリフィルムを被覆して裾から蒸気が漏れないよう重しをする。 ② 1回の消毒時間は 15 分程度とし、次々にスパイクを隙間無く移動し消毒する。床土の温度が低い場合は消毒時間を延長する。 ③ 処理後、床土が過湿になった場合は地温低下後、速やかにフィルムを除去する。 (2) ハウス内土壌消毒法 ① 1回の消毒時間は 12 分程度とし、次々にスパイクを隙間無く移動し消毒する。地温が低い場合は消毒時間を延長する。 (3) 留意事項 ① マンガン過剰症の発生が危惧されるほ場では、土壌診断を実施しその結果に基づき蒸気消毒を行うとともに、透排水性の改善や土壌 pH の矯正を行う。 ② 処理直後にすいかを作付けする場合には、土壌診断に基づき、適正な窒素施肥管理を行う。また、熱により有機物が消耗しやすいので、完熟堆肥等有機物を施用して地力の維持管理に努める。
ゆうがおつる割病 (すいか台木用)	耕種的防除 1. 発病苗及び発病する恐れがある苗は定植しない。 2. ゆうがおの種子は、無菌種子（70℃ 5 日間乾熱処理済み）を用いる。

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
ゆうがお)	3. 発病地では、かぼちゃ台木を使用する。
べと病 6月上旬～8 月下旬	耕種的防除 1. 連作を避ける。 薬剤防除 1. 茎葉散布 (1) 高温時散布は薬害を生じやすいので注意する。 (2) 幼苗は、一般に薬害を生じやすいので注意する。
うどんこ病 6月上旬～8 月下旬	薬剤防除 1. 茎葉散布
つる枯病 6月上旬～8 月下旬	耕種的防除 1. 連作を避ける。 薬剤防除 1. 茎葉散布
炭疽病	耕種的防除 1. 連作を避ける。 2. 通路除草などですいかの野良生えを除去する。 3. 裾換気型トンネル栽培では、被覆を除去せずに雨よけし、果実に降雨があたらないよう被覆内に果実を納める管理を行う。 4. 栽培全期間において、発病株を発見した場合は、すみやかに抜き取り、ほ場外に搬出し適正に処分する。 5. 収穫後の残さはすみやかに搬出し、適切に処分する。 薬剤防除 1. 薬剤抵抗性情報（詳細は 261~277 ページ参照） チオファネートメチル剤耐性菌：発生が確認されている。 2. 茎葉散布（露地トンネル栽培） (1) 育苗期間中の発病や保菌を防ぐため、予防散布を実施する。 (2) トンネル内での早期発生を防止するため、少なくとも定植前7日以内に効果の高い薬剤（プロピネブ水和剤DF、TPN水和剤フロアブル、マンゼブ水和剤、シメコナゾール・マンゼブ水和剤）の予防散布を実施する。 (3) 穴開け換気型トンネル栽培では被覆除去直後、その他の栽培では幼果期以降、すみやかに効果の高い薬剤によるローテーション散布を行う。 (4) 収穫後の果実での発病を防ぐため、できるだけ収穫日に近い時期

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
	に効果の高い薬剤を散布する。
菌核病	薬剤防除 1. 茎葉散布

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
アブラムシ類 (モモアカアブ ラムシ、ワタア ブラムシ) 6月上旬～8 月中旬	薬剤防除 1. 茎葉散布
ハダニ類(ナ ミハダニ、カン ザワハダニ) 7月中旬～8 月中旬	薬剤防除 1. 茎葉散布 (1) 同一薬剤の連用を避ける。 (2) 発生初期のうちに防除する。
コナダニ類 前年秋	耕種的防除 1. 保温資材として用いるモミガラなどは発生源となるので、使用前に 十分乾燥させる。

(ウ) クリーン農業技術（病害虫防除関係分）（すいか）

○物理的防除法

- ・蒸気消毒（スパイク法）による育苗床土及びほ場（半身萎凋病対策）の消毒

○耕種的防除

- ・耐病性（つる割病）台木の利用
- ・炭疽病対策として露地トンネル栽培からハウス栽培への転換、露地トンネル栽培における畝間被覆による土壌跳ね上がりの防止
- ・保温資材として用いるモミガラなどは、コナダニ類の発生源となるので、使用前に十分乾燥させる。

※注釈

- 蒸気消毒（スパイク法）による育苗床土及びほ場（半身萎凋病対策）の消毒
他の土壌消毒法に比べて、実施時期が限定されない、消毒後すぐに作付けできる、小規模からの消毒が可能であるなどの利点がある。

①育苗床土

- 1) ポリフィルム上に床土を高さ 25 cm以内に土盛りし、その上にポリフィルムを被覆し、裾から蒸気が漏れないように周囲に重しをする。
- 2) 1回に消毒時間は15分程度とし、次々にスチームスパイクを移動し隙間無く消毒する。なお、床土の温度が低い場合には消毒時間を延長する。

②ほ場（半身萎凋病対策）

- 1) スイカ半身萎凋病菌(*V. dahliae*)を含む糸状菌の死滅に要する蒸気土壌消毒処理時間は90°C以上になってから9分である。なお、スパイク式蒸気消毒では処理開始後12分である。
- 2) 蒸気土壌消毒の全面処理によるスイカ半身萎凋病の軽減効果は極めて高く、処理後3作目まで持続効果がある。蒸気土壌消毒に当たっては作土層(0~25cm)をよく耕起し、土層全体に蒸気が均一に行き渡るようにする。
- 3) 蒸気土壌消毒処理によるスイカ半身萎凋病の軽減効果は現地局所処理ほ場においても認められ、局所処理の持続性は処理後2作目までである。蒸気土壌消毒の局所処理に当たっては、消毒箇所を特定するために、すいか栽培中に本病の発生程度や発生箇所の把握につとめる。
- 4) 蒸気土壌消毒直後にすいかを作付けする場合には、土壌診断に基づき適正な窒素施肥管理を行う。また、蒸気土壌消毒後には土壌有機物が減耗しやすいので、完熟たい肥などの有機物を施用して地力の維持につとめる。

●耐病性（つる割病）台木の利用

スイカつる割病に対しては、ゆうがお及びかぼちゃが抵抗性である。かぼちゃ台木に比べゆうがお台木の方が草勢が強くない。

ユウガオつる割病に対しては、とうがん、雑種かぼちゃ、共台が抵抗性である。また、ゆうがお台でも抵抗性のある系統があるので、ユウガオつる割病発生ほ場でゆうがお台を選ぶ場合はこれらの品種を使用する。